詩人を中心として 明治大正詩史（序説）

島田忠夫

（一）

○にしがき

本稿は、雑誌『むらさき』十月號の爲めに依頼を受けたものである。然るに、私は八月中、平市へ赴き、日本畫個人展を開催せる爲め原稿全部の執筆を約一作と果さず、平滞在中も屢々速達にて督促を受けたが、わづかに前半を今日（八月十七日）『むらさき』に手渡したに過ぎない。

故に、引続いて本稿を續き、之れをわが『磐新』紙上に掲載する。讀者諸子は本稿の前半を『むらさき』十月號を以つて參照せられ、併せ讀まるやう切望致します。

●石川啄木は、極めて早熟な天才詩人である言へる彼が二十歳の若冠で公刊した詩集『あこがれ』（明治三十八年五月）はすでに世人を驚かすに足りた。啄木の詩は最初から流麗自在なものであつて、蒲田泣菫、蒲原有明の作風を思はせるやうな天禀の才華を匂はせてはゐるが、後ちに多くの傑れた短歌を作るに及んで、この方面に多くの共鳴者を得たのであつた。歌集『一握の砂』『悲しき玩具』等が

それである。啄木の詩には「櫻のまぼろし」「妹よ」の「接吻の時」「天草雅歌」等の如き可憐なものがあり、「無題」數篇の如き烈々たるものもあるが、例へば『幽思』に見る珠玉ごとき好篇の佳篇こそは、彼の天成の禀質を窺ふに足るものと言へよう。

●北原白秋は明治三十七八年の交、雑誌『文庫』に『綺社』に籍を同じうして、新詩社に入り、また去つて『スバル』『屋上庭園』に詩歌を發表したが、詩集『邪宗門』を公刊するに及んで、詩名は一世に聞ゆるに至つた。爾後、詩・短歌・散文詩・小唄・民謡・童謡と筆を染めてたさは全く獨自なものである。

●木下杢太郎も白秋と時を同じうし、華々しき浪漫精神を高揚した詩人であつた。三十七八年の交、新詩社に籍を同じうして、新抒情詩より象徴詩の詩運動に文庫派詩人中に重きをなしてゐた。後ち、新詩社に參加したが、後ち白秋等と『スバル』に據つた。杢太郎の詩風は白秋の初期のそれの如く異國情趣饒かに、朱の阿闍陀帆船の幻想、また南蠻物への限りなき思慕を覺ゆるけれども、言ひ

『接吻の時』『天草雅歌』等また『眞珠抄』『雪中思慕』『葱葉松』等その尤なるものであらう。

●木下杢太郎また白秋と時を同じうし、華々しき浪漫精神を高揚した詩人であつた。三十七八年の交、新詩社に籍を同じうして、新抒情詩より象徴詩の詩運動に參加したが、後ち白秋等と『スバル』に據つた。杢太郎の詩風は白秋の初期のそれの如く異國情趣饒かに、朱の阿闍陀帆船の幻想、また南蠻物への限りなき思慕を覺ゆるけれども、言ひ

平句俳黎會 九月句會。互選句集

『踊』（二）

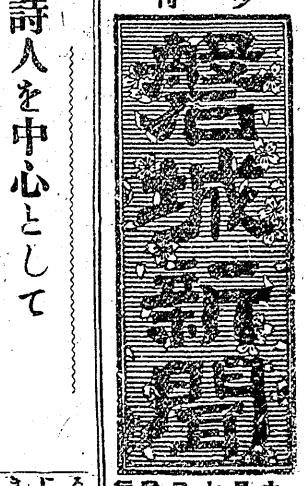
○時局柄踊も小さくもの淋し　波部醒夢
○ふるさとに病みて踊の笛たねし　大和田水明
○踊笛冴ゆる白夜の里輪かな
『蚊遣』
○縫ふ母のいたく老いたり蚊火さゝぐ　土田華岳
○酌めどつきぬ別れを蚊火に明かさんか
○チョロ〳〵と齋草傳ふ蚊遣の火　國玉碧笑
○蚊火の煙りゆるくからまるへちま棚
○燃ね立ちし火遣の草をしめしげり　猶狩果秋
○蚊やり火の消えて涼しき闇の家　殿木麗月
○風に燃ね風に消ねけり庭蚊遣り　本間鷹子

天氣豫報

小名濱測候所觀測

今晩も明日も南の風々立模様

夕刊



九月七日日發行

定價一ヶ月金六拾五錢（郵税共）　廣告料金（登録廣告）金六拾錢（一行）（編集後記）金一圓（一行）　發行所　磐城新聞會社　東京拡告番一〇六・五八五五番　（日曜祭日翌日休刊）

詩人を中心として 明治大正詩史（序説）

島田忠夫

（一）

○にしがき

本稿は、雑誌『むらさき』十月號の爲めに依頼を受けたものである。然るに、私は八月中、平市へ赴き、日本畫個人展を開催せる爲め原稿全部の執筆を約一作と果さず、平滞在中も屢々速達にて督促を受けたが、わづかに前半を今日（八月十七日）『むらさき』に手渡したに過ぎない。

故に、引続いて本稿を續き、之れをわが『磐新』紙上に掲載する。讀者諸子は本稿の前半を『むらさき』十月號を以つて參照せられ、併せ讀まるやう切望致します。

●石川啄木は、極めて早熟な天才詩人である言へる彼が二十歳の若冠で公刊した詩集『あこがれ』（明治三十八年五月）はすでに世人を驚かすに足りた。啄木の詩は最初から流麗自在なものであつて、蒲田泣菫、蒲原有明の作風を思はせるやうな天禀の才華を匂はせてはゐるが、後ちに多くの傑れた短歌を作るに及んで、この方面に多くの共鳴者を得たのであつた。歌集『一握の砂』『悲しき玩具』等が

それである。啄木の詩には「櫻のまぼろし」「妹よ」の「接吻の時」「天草雅歌」等の如き可憐なものがあり、「無題」數篇の如き烈々たるものもあるが、例へば『幽思』に見る珠玉ごとき好篇の佳篇こそは、彼の天成の禀質を窺ふに足るものと言へよう。

●北原白秋は明治三十七八年の交、雑誌『文庫』に『綺社』に籍を同じうして、新詩社に入り、また去つて『スバル』『屋上庭園』に詩歌を發表したが、詩集『邪宗門』を公刊するに及んで、詩名は一世に聞ゆるに至つた。爾後、詩・短歌・散文詩・小唄・民謡・童謡と筆を染めてたさは全く獨自なものである。

●木下杢太郎また白秋と時を同じうし、華々しき浪漫精神を高揚した詩人であつた。三十七八年の交、新詩社に籍を同じうして、新抒情詩より象徴詩の詩運動に參加したが、後ち白秋等と『スバル』に據つた。杢太郎の詩風は白秋の初期のそれの如く異國情趣饒かに、朱の阿闍陀帆船の幻想、また南蠻物への限りなき思慕を覺ゆるけれども、言ひ

平句俳黎會 九月句會。互選句集

『踊』（二）

○時局柄踊も小さくもの淋し　波部醒夢
○ふるさとに病みて踊の笛たねし　大和田水明
○踊笛冴ゆる白夜の里輪かな
『蚊遣』
○縫ふ母のいたく老いたり蚊火さゝぐ　土田華岳
○酌めどつきぬ別れを蚊火に明かさんか
○チョロ〳〵と齋草傳ふ蚊遣の火　國玉碧笑
○蚊火の煙りゆるくからまるへちま棚
○燃ね立ちし火遣の草をしめしげり　猶狩果秋
○蚊やり火の消えて涼しき闇の家　殿木麗月
○風に燃ね風に消ねけり庭蚊遣り　本間鷹子

隱密小天狗

（118）

中川雨之氏作
近藤鐵氏畫

その四

○

風は清し一月はさやけしいざよもに踊りあかさん

老のなごりに　良寛

賀家兄新居

珠実　小柳務平

精勵多年福祉增
新居經始費心肝
工成宏壯還輪奐
地下先君帶笑看

講談

お馬はいよう

鈴木　貞也

お馬、はいよう、林の路を
行つたよ、行つた、お背のうへに
子供を乘せて、チンカラ
チンカラ
行つたよ、たくへ
お馬、はいよう、子栗鼠がちよろ
逃げたよ、逃げた、この畔のやぶへ
子供は笑ろた、チンカラ
チンカラ
笑つたよ、ワハハ
お馬、はいよう、松かさぼとり
落ちたよ、落ちた、お馬の鼻に
子供は見てた、チンカラ
チンカラ
見てたよ、ホを
お馬、はいよう、落葉の路を
行つたよ、行つた、鈴々ふつて
子供を乘せて、チンカラ
チンカラ
行つたよ、おくへ

榊原　英伍

誰かがおいたか知らないの
机の上におつたのよ
かいたちの實がおつたよ

かいたちの實は青い玉
眞白い花を思ふのよ
痛いとげとげ思ふのよ
からたち垣根は綺麗だよし、
田舎の家にあるんだよ
練兵場にあるんだよ
からたちの實は青い玉
お空に投げては受けてみる
ひとりで遊でるんだよ

隱密小天狗

（118）

中川雨之氏作
近藤鐵氏畫

その四

○

風は清し一月はさやけしいざよもに踊りあかさん

老のなごりに　良寛

賀家兄新居

珠実　小柳務平

精勵多年福祉增
新居經始費心肝
工成宏壯還輪奐
地下先君帶笑看

講談

お馬はいよう

鈴木　貞也

お馬、はいよう、林の路を
行つたよ、行つた、お背のうへに
子供を乘せて、チンカラ
チンカラ
行つたよ、たくへ
お馬、はいよう、子栗鼠がちよろ
逃げたよ、逃げた、この畔のやぶへ
子供は笑ろた、チンカラ
チンカラ
笑つたよ、ワハハ
お馬、はいよう、松かさぼとり
落ちたよ、落ちた、お馬の鼻に
子供は見てた、チンカラ
チンカラ
見てたよ、ホを
お馬、はいよう、落葉の路を
行つたよ、行つた、鈴々ふつて
子供を乘せて、チンカラ
チンカラ
行つたよ、おくへ

榊原　英伍

誰かがおいたか知らないの
机の上におつたのよ
かいたちの實がおつたよ

かいたちの實は青い玉
眞白い花を思ふのよ
痛いとげとげ思ふのよ
からたち垣根は綺麗だよし、
田舎の家にあるんだよ
練兵場にあるんだよ
からたちの實は青い玉
お空に投げては受けてみる
ひとりで遊でるんだよ

堀まらなくなつて、惣五郎はまたふら〳〵とその居酒屋を出た。

惣五郎が橋場へ戻つた時彼はもう倭作を捕へようといふことにすつかり決心が付いて居た。

正雪から貰た褒美の小判の光。武士の姿に變つた自分の立派さ。それ等が、彼の目先にちら付いてしようがなかつた。

歸つて來たのは午後の七刻すぎで、まだ日脚も高いし、そこらで蝉がやかましく鳴き競つてゐて、大川緣の橋場の宵はもう靜かであつた。

惣五郎は、家へ這入る前に、先づ小屋の方へ廻つてそつと覗いてみた。

薄暗い中で、倭作が一人

住居の方へ來て見ると。

「なあに、慌てることもあるまい。魚は網にかゝつて居る爰でゝ病父の藤兵衛が一人活さうと殺さうと、思ひのまゝだ」

すると、酒に熱した頭の中で。

「きさまは、命の恩人を裏〳〵やつて居たやうだが。切るつもりか。あの爰な恩人を知らず奴」

と、何處かで罵る聲が聞ねる。かと思ふと、また。

「恩國々々と、何を躊躇する。いゝやい、小屋の方にも居ねえやうだ」

「それぢや、小屋の方かも知れねえ」

「では、おほかた觀音さまわでもお詣りしたのだらう。此頃は、ちつともお詣りができないといつてこぼしていた」

「ね、一件――といふと」

惣五郎は、わざと、眉をひそめた。

「知れたこつちやねえか。あめえ速か、腕によりをかけて作り上げたあの具足。あの役立つのはいつのことか、といふことさ」

「なあんだ、そんなことかそれは、先生が、まだ何とも云にねえから、お先眞暗だよ」

「徳川の天下を、引くら覆さうといふんだ、乘るか、反るかの大博奕さ、巧く行けば宜いけれど一つ間違つに日にや大變だ、それこそこちと等親子三人も、逆磔刑は免れつこは無えからのう」

藤兵衛は、いま心に描き出した恐ろしい幻影に脅かされてゐるのだつた。

「どうだ、先生の處で。別に、變つた話もなかつたかい」

といつて藤兵衛は訊いた

「さうだ。別に變つた話もなかつたね」

惣五郎は、父の耳には。倭作のことを聞かせたくないと思つたからである。

言つて聞かせた處で、何の役にも立たない老人に。この上、餘計な心配をさせたくないと思つたからである。

すると、藤兵衛は、急に膝をひそめて。

「一體、あの一件は、いつになつたら押ツ始まるんだい」

「さうかも知れないね」

やがて、惣五郎が、傍へ行

平市田町（電話五三一番）
高久病院
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科　小兒科
外科　花柳病科
耳鼻咽喉科
（看護婦至急募集）

外科、内臓外科
エツキス光線科　院長　安齋徹
新設　産婦人科　醫學士　黒澤
平市田町
入院隨意　安齋醫院
電話四七五番

食事　喫茶　酒場を營ねた
平市三田町二
レストラン　サロン

お醤油は……ヤマフル醤屋
山崎合名會社
味噌醤油　たひら正宗　經師食料品
福島縣平市（電話答案部一〇番　本店二七番）
明治生命磐城代理店　山崎與三郎

ラヂオの故障は――放送局指定相談所へ
ラヂオの故障の多い季節になりました。
修理は測定裝置技術完備の弊店へ
放送局指定ラヂオ相談所
JK受信機配給所
富永ラヂオ店
平驛前　電話四九六番

看護婦至急募集
（委細面談）
高柳醫院

新車のお知らせ
斷然!!!　乘心地良い!!!
三七年型フオード
入車いたしました。是非！御試乘の程を！
市内四丁目
スヾキタクシー　電二一七番

上原家政婦會
平市紺屋町一一
會主産婆　上原通子
電話二二二番
産婆看護婦資格有者ニシテ最モ熟練ナル者ヲ一般家政婦トシテ派出致シマス

平市二丁目
あまと自動車商會
電話六四〇番

高　男女學生服大特賣
高島屋の洋服
新柄背廣　トーレンコート
既製品ニ並ニ注文品
高島屋
平市二丁目
電話六三八番

和洋家具……建具テーブル椅子……
其他裝飾品一般……
御用命は迅速に御勞め致します。
諸官衙各學校御用達
製作販賣
平市五丁目四
片寄製作店
片寄小源太
電話四八四番
十五、六歳見習職工募集

第一線の慰問品　二八
見不知羊羹と潮の華
平市五丁目
泉屋菓子店
電話六六八

日本姓名學會東北支部長
鵜沼孝昌
平市紺屋町　三六
鑑定項目
命運の代一てみの前名……るかわもてん何
体力（肉体（健康、不健康、相貌）疾病（病根病勢、病名）に關する一切）
活動（職業（適業、不適業）天運（天運、成功、不成功、災厄）に關する一切）
血緣（家族運（父母の緣、夫婦の緣、子供の緣）男女緣（緣有無、緣質、相性、相剋、婚期方位に關する一切）
銀行、會社名、商號、家號、會名、雅號、藝名、養子、養女、姓名、生兒名

〔第三種郵便物認可〕　昭和十三年九月八日　木曜日　第五千三百二十一號　〔二〕

地方では誰がなる？
最初の司法保護委員
本格的活動は來春から

更に自動車購入
平署の足完備す

記念日迫る

來る十三日の司法保護記念日に際し地方唯一の免囚保護機關たる平自營會では保護委員會を組織し每月一回定例會を開いて各擔當保護區分を結成漸次郡下同業者に能率が增進したので更に地方篤志方面の寄附を基本として四千七百圓を投じ三八型フオード車一輛を購入し、四洋服製造業間にも目下同に向つて機能の一大强化をし既に使用中であるが時局に應じ市町村若は警察署單位組合結成の計畫が進められ試みた平署では從來の署用關係の出入用務輻湊の折柄自動車が使用年限から些か活動上大に急場の敏活を期する事が出來、署內に一段の明るい氣分を漂はせてゐる

大衆的で無い丈け
張合ひ薄の選擧
月餘に迫つて尙は沈靜

所得稅調査員

豊秋の前奏！
稻穗は膨るる
けふ高温八十五度

紹介陣容强化
連絡委員數(一二名)決る
近く理想人物を詮衡

町村に新看板
(紹介所事務取扱)

陣中を聽く
(232)

吾人には苦が手な
支那人の簡易生活
市內柳町出身　宇佐美芳位君(信通)(上)

玉屋ノ眼鏡

樂しい運動會
四小學日割決る

投槍

大衆的で無い丈け
張合ひ薄の選擧
月餘に迫つて尙は沈靜

增產計畫を樹て
木炭報國に邁進
氣負ふ濱三郡同業組合

豚丹毒に用心

豊秋の前奏！
稻穗は膨るる
けふ高温八十五度

玉屋ノ眼鏡

樂しい運動會
四小學日割決る

陣中を聽く
(232)

吾人には苦が手な
支那人の簡易生活
市內柳町出身　宇佐美芳位君(信通)(上)

夜間診療　内科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
村松病院　胃腸病　性病科
（平市南町電一〇七番）

常陽證券株式會社
磐城縣平市三丁目　電話二四〇番
平支店　電話七八四・七八五
水戸市泉町二丁目　電話六〇一番
高萩支店　多賀郡高萩町　電話一一九番
大子支店　久慈郡大子町　電話二九番

開業お知らせ
御料理
平市中田町
金みよし
電話四一九番

根本産婦人科醫院
平市南町五二　根本莊次郎
根本貞雄　電話三四番
（病室完備）（入院隨時）

耳鼻咽喉科專門
平市南町一六番地
大和田醫院
（入院隨意）（病室完備）　電一七〇番